

## 留学報告書 ～台湾留学を終えて～

文藻外語大学  
国際文化学部生（中期）

### 【台湾と日本の関係】

文藻外語大学には5年制もあり、高校生も同じ敷地内で学んでいる。5年制には日本語学科・英語学科・ドイツ語学科・フランス語学科・スペイン語学科がある。5年生になると卒業論文の代わりに卒業公演をする。卒業公演は各学科の言語で演劇をする。そのため5年生の生徒は、夏休みも学校に来て演劇の練習や劇に使う小道具など全て手作りだ。私は日本語学科の卒業公演を見に行った。題名は「空の村号」という日本で第43回斉田喬戯曲賞を受賞した作品だ。内容は、福島で暮らす酪農一家の小学5年生・楠木 空が3.11東日本大震災と福島原発事故をきっかけに、空の家族や村が大きく変わってしまい、空は取材に来ていた映画監督との出会いをきっかけに映画を撮ることになるという話だ。私は、卒業公演を見てとても感動をした。なぜなら、劇中は中国語を一切使わずにすべて日本語で、それに使っている日本語も福島の方言をつかっていたからだ。日本人でも福島で育っていなければ難しいのに、方言を使っていて凄いなと思った。内容も東日本大震災で原発事故がおこり、今まで住んでいた所を離れないといけなくなり、友達や家族とも離れ離れになってしまうところはとても感動した。私自身このような震災を実際に経験していないので、福島ではこのような経験をしていたと知りとても悲しくなった。この公演ではオリジナルのグッズが販売されていて、その売り上げは東日本大震災の募金に回されるそうだ。日本ではあまり知られていないが、台湾は東日本大震災のときに、募金を呼び掛ける番組が放送され、震災の翌日から台湾各地で募金活動が行われるほど、日本の震災を自分の国のことのようにしていた。そのため台湾は一番多い約200億円の義援金や物資そして、どの国よりも一番速くに救助隊を出してくれた国である。そのことをルームメイトに話すと、彼女は「日本だからみんなが寄付をしたんだと思う。」とってくれた。私は、なぜこんなに親日でいてくれるのか疑問に思い聞いてみた。彼女は、「今の台湾があるのは日本の統治時代があったからだ」と私は思う。それに台湾人の国民性（親切・まじめなど…）も統治時代があったからだと思う。それに、台湾人なら絶対に知っている八田 興一という日本人がいる。」と教えてくれた。八田興一さんは、当時台南に東洋一の大きいダム『烏三頭ダム(八田ダム)』を建設し、台南でも作物を作れるようになった。そのため、干ばつや洪水で苦しんでいた台南の広大な土地が豊かになったからだ。

それに台湾は昔、日本だったことがある国で、その時に日本語教育をさせていたので、お年寄りの人には日本語を話せる人がいる。旅行で花蓮・台東へ旅行にいったときに、あるお年寄りに初めは中国語で話しかけられたが、私たちが日本人だとわかると日本語で話

してくれた。台湾人のお年寄りで日本語を話せる人がいるとは知っていたが、こんなにもカタコトや変なイントネーションではない、しかも日本人でもよく間違える“ら抜き言葉”ではない日本語が、今でも日本語だけで会話できるほどぺらぺらだとは思っていなかった  
ので、とても驚いた。



〈日本語学科卒業公演〉

#### 【授業について】

日本語教育の名残りから『ニホンゴ』という日本語とは違う台湾の言語として残っているということを、言語学で学んだ。言語学を学んだことによって言語学についてとても興味がでた。特に、ある文章をリズムに合わせて読むということ、日本語話者と中国語話者にさせると、日本語話者には簡単にできるが中国語話者にはできないということなどに、とても興味がでた。

体育の授業として、ヨガがある。もともとヨガに興味があったので、授業としてヨガでできることを教えてもらい参加した。ジムですのような本格的なものだった。

#### 【華語クラス】

私の留学生生のプログラムである中国語のクラスには、日本人・フランス人・イタリア人・ドイツ人・ロシア人たちと中国語を学んだ。初めはあまりコミュニケーションを上手にとれなかった。しかし、お互い中国語で会話出来るようになってくると、中国語でわからないところは英語で会話して、一緒にごはんや夜市に行き、フランス人の子とは音楽の好み  
が似ていたので、お互いに好きな曲やアーティストの話しをした。クリスマスときには  
イタリア人の子が、イタリアのクリスマスのケーキをCostcoで買ってきてくれて、授業の  
間の10分休憩がクリスマスパーティーになった。日本とは違って本場のクリスマスを知る

ことができ楽しかった。

私のクラスでは、よく新出単語や会話文の内容に合わせて自分の国について、話すことが多かった。例えば、新しい単語で『パン』があると、先生は台湾人だったので、台湾を含む各国の代表とするパンについて紹介しあったりしていた。日本人で話し合い、カレーパン、焼きそばパン、あんパンを紹介した。すると、本場のフランス人の子に「それはパンじゃない、フランスではとても考えられない、とても奇妙/おかしい」といわれた。私はこの授業が好きだった。先生は2人いて、2人とも面白い先生で1人の先生は、この人の前世は関西人じゃないかと思うぐらい、擬音をよく使う面白い先生で、ほかの国の文化を知ることができたから好きだった。



〈華語クラス, 学校のクリスマスツリー〉

### 【台湾の生活について】

一番驚き、嬉しくて、でも少し後悔したのが、台湾の通信環境についてだ。台湾は携帯の通信制限がなく、ギガが使い放題なのだ。ほかの国は何ギガと制限があるが、台湾にはなく、よく悩まされる速度制限もない。このことは外国で生活していくなかで、とてもうれしかった。しかし、以前私は台湾へ旅行に来た時にポケットWi-Fiを借りていったので、もっと早くに知っていれば…と少し後悔した。次台湾へ旅行に行くときは、空港で3日のSIMでも購入できるので、購入しようとおもう。

台湾ではほとんどの人がバイクを使う。そのため、日本では見たことがないバイクの二階式カーブの印・止まる場所があったり、トンネルでは車とは別に道路があったりする。そして、おもしろいのが一家全員でバイク1台に乗っていることが日常的だった。お父さんが運転し、後ろに抱っこ紐を前に赤ちゃんを抱いたお母さん、そして運転しているお父さんの足に挟まれて立つ子ども、計4人乗りなど普通だった。特に小さい子どもが前で立

っている姿が多かった。台湾人の子が言うには、小さいこどもは握力が弱いので、急発進の時などで振り落とされたり、移動中に寝てしまう恐れがあるため、前に乗っているらしい。日本ではありえない光景と考え方だった。



〈華語クラス〉